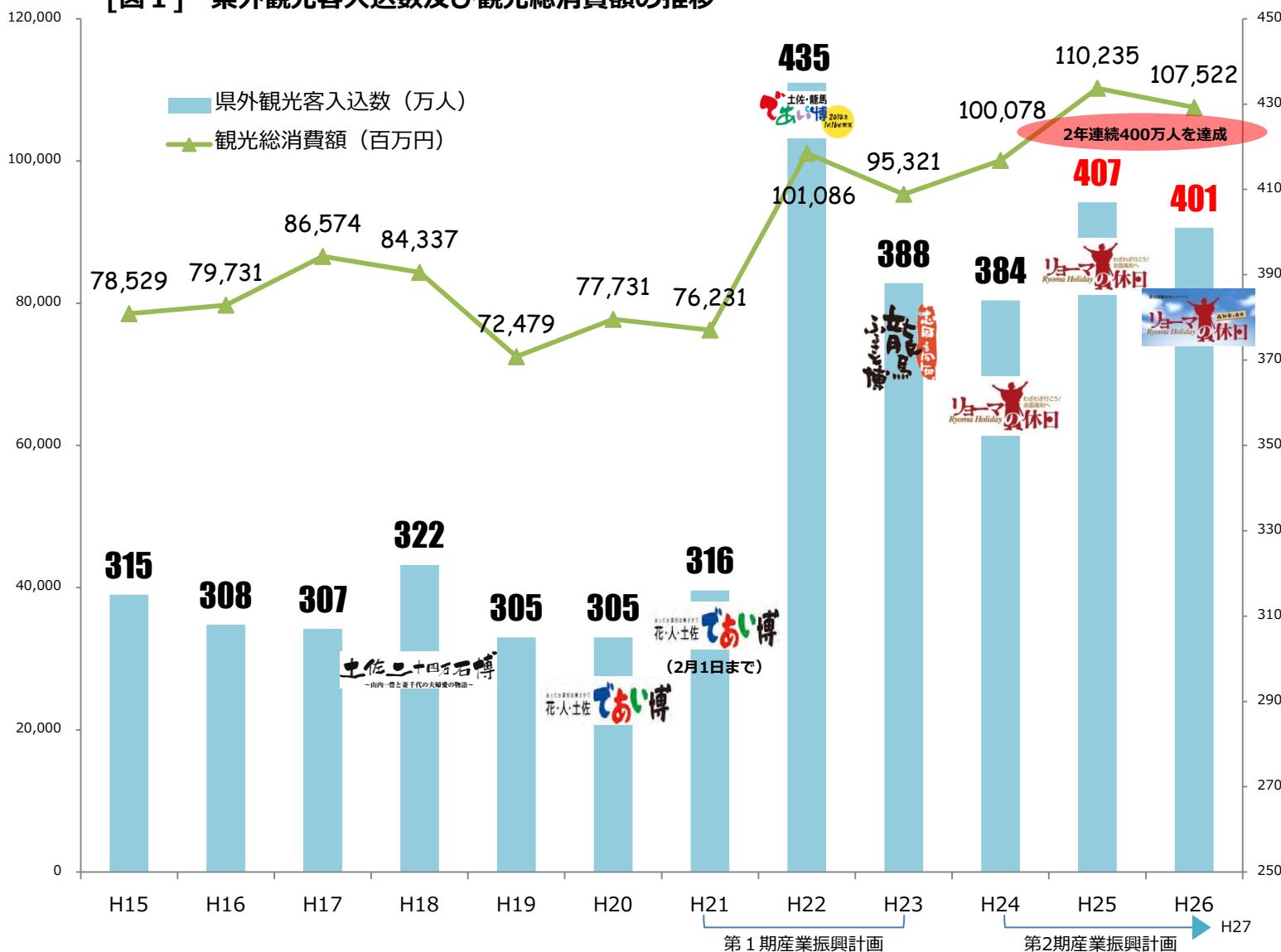


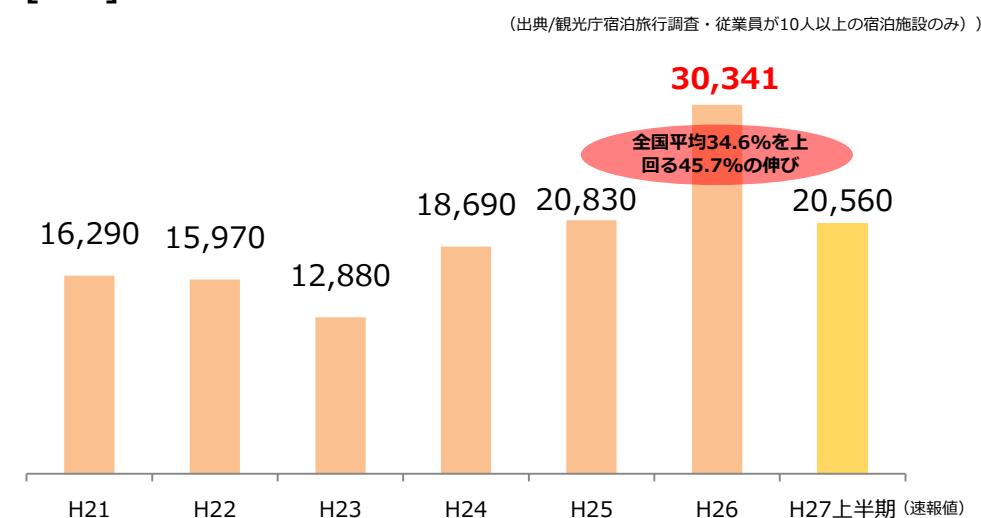
観光分野を代表する4年後の目標の達成見込み

地域観光の底上げ、効果的なプロモーション、おもてなしの推進など、「つくる」、「売る」、「もてなす」の各段階において観光振興の取組を進めてきた結果、目標である県外観光客入込数400万人を2年連続（H25、H26）達成した（図1参照）。4年後の目標（400万人以上、観光総消費額1,100億円以上）について、上半期の状況などから達成は可能と考えているが、引き続き全力で取り組み、目標達成をめざす。

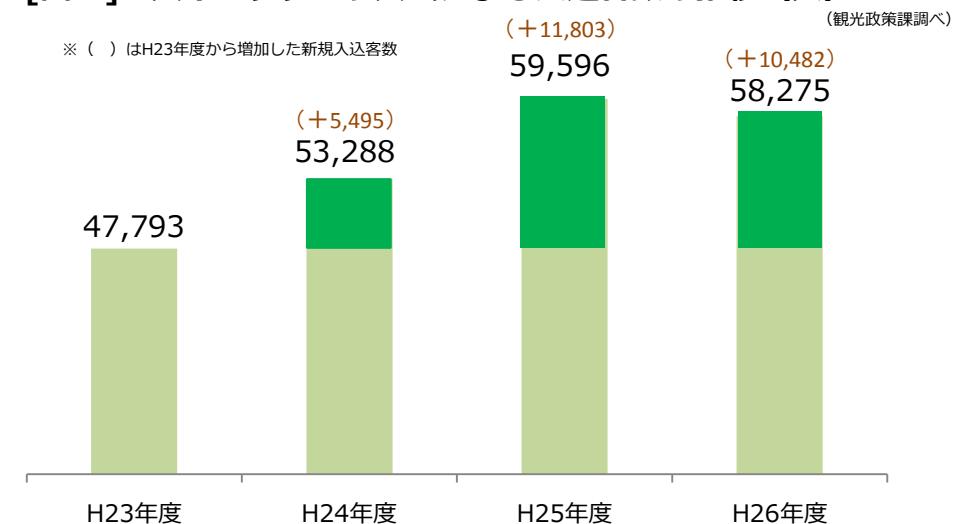
【図1】 県外観光客入込数及び観光総消費額の推移



【図2】 本県の外国人延べ宿泊者数の推移 (人泊)



【図3】 スポーツツーリズムによる入込客数の推移 (人)



【表1】 主要な関連要素の目標達成状況

項目	達成目標	出発点	直近の実績 (H26)	出発点に対する達成状況
要素1 新たな観光客の獲得 (首都圏からの観光客数)	+14.5万人 [45万人]	(H20) 30.5万人	[目標]45万人 54万人	+23.5万人
要素2 スポーツツーリズムの推進	+2万人 [2万人]	(H23) +2万人	[目標]+1.7万人 1.05万人	+1.05万人
要素3 国際観光の推進	+1.6万人泊 [3.2万人泊]	(H22) +1.6万人泊	[目標]2.8万人泊 3.0万人泊	+1.4万人泊
要素4 リピーターの拡大	+13万人 [88万人]	(H22) 75万人	[目標]84.75万人 101万人	+26万人

【表2】 観光客満足度調査結果 ※「大変良い」「良い」を合計した割合、()内は大変悪い、悪いの合計

項目	H22 (出発点)	H26
宿泊先	77%(4.6%)	77%(2.7%)
食事・料理店	74%(4.0%)	79%(3.7%)
観光施設	75%(2.2%)	77%(1.9%)
観光施設の美化	72%(3.4%)	73%(2.3%)
公共トイレの快適性	57%(6.3%)	57%(4.6%)
案内標識	53%(8.5%)	52%(6.1%)
タクシーの接客マナー	46%(3.1%)	49%(2.5%)

これまでの取り組みの成果

見えてきた課題

435万人の早期実現をめざしたさらなる挑戦

【地域地域の観光資源の磨き上げ】

<観光拠点の整備>

- 海洋堂ホビー館（H24.7）や室戸世界ジオパークセンター（H27.4）の整備のほか、**本県を代表する観光名所や豊かな自然を活かしたアウトドアの拠点などの整備計画の策定に着手**
⇒ 整備計画中の新たな観光拠点（主なもの） ※（ ）は完成予定年
 - 高知市 桂浜公園（H32）
 - 土佐清水市 足摺海洋館（H32）
 - アウトドアの拠点
 - ・ 本山町 アウトドアの里（H29）
 - ・ 越知町 宮ノ前公園等キャンプ場（H30）
 - ・ 土佐清水市 爪白キャンプ場（H30）

<商品の磨き上げ>

- 地域博覧会の開催などを通じて、地域地域の観光資源の磨き上げや商品造成などにつながった。
⇒ **体験プログラム数** はた博65件、東部博65件
⇒ **周遊プラン数** はた博9件、東部博10件
- セミナー等を継続的に開催して人材の育成を図るとともに、**旅行業の専門知識を有する地域コーディネーターを配置し、商品のさらなる磨き上げに取り組んだ。**
(主な人材育成の取り組み)
⇒ H24年度 とさ旅セミナー 270名参加
⇒ H25年度 ステップアップ研修 39名参加
⇒ H26年度 広域観光みらい会議（3回） 319名参加
⇒ H27年度 **土佐の観光創生塾（7月末現在）** 69名参加
広域観光みらい会議（1回） 102名参加

【地域における広域観光の推進】

- 県内6ブロックに広域観光組織が設置され、官民の連携による情報発信やセールス活動の強化につながった。
- 人的・財政的な広域観光組織への支援を継続することで、地域自らの企画による地域博覧会の開催につながるとともに、官民による広域観光推進体制基盤が構築できた。
⇒ 幡多地域（6市町村）「楽しまんと！はた博」（H25.7.1～12.31）
⇒ 安芸地域（9市町村）「高知家・まるごと東部博」（H27.4.29～12.23）
⇒ 高幡地域（5市町）「2016奥四万十博」（H28.4.10～12.25）
- 地域博覧会の開催などを通じて、広域観光組織の体制整備と地域地域の観光資源の磨き上げや旅行商品造成などにつながった。
【再掲】
⇒ **体験プログラム数** はた博65件、東部博65件
⇒ **周遊プラン数** はた博9件、東部博10件

※ はた博開催前後の状況（各年7月～12月）

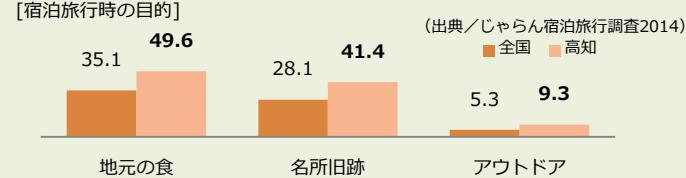
	H24	H25（はた博）	H26
体験プログラム参加者数	3,291人	5,881人	8,858人
幡多地域全体の入込数	126万人	147万人	138万人

【地域地域の観光資源の磨き上げ】

<観光拠点の整備>

- 明治維新150年にあたる平成30年に向け、県中央部に核となる歴史施設が完成するが、**地域地域において本物を感じられるよう、歴史資源や歴史施設のさらなる磨き上げが必要（①）**
⇒ H29.3高知城歴史博物館オープン
⇒ H30.1県立坂本龍馬記念館リニューアルオープン
- 歴史を中心としつつ、**本県の強みである「食」などが地域地域で一体的に連携した観光地づくりが必要（①）**

- 本県の豊かな自然の認知度はまだ低く、旅行目的となり得るアウトドア拠点が必要（②）
[宿泊旅行時の目的]



<商品の磨き上げ>

- **国ごとに異なる外国人観光客の嗜好やニーズに対応した新たな商品の造成が必要（③）**
- **旅行者のトレンドやシーズン別のニーズなどに応じた体験プログラムや周遊プランの継続的な磨き上げが必要（④）**
- 地域地域において**観光産業を担う事業体は零細であり人材や後継者は依然として不足（④）**

【地域における広域観光の推進】

- 広域組織基盤がまだ脆弱であり、**官民がより一体となった組織体の強化とリーダーの育成が必要（⑤）**



- 体験プログラムや周遊プランを国内外の旅行者のトレンドやニーズに応じて、**継続的に磨き上げることが必要（⑤）**【再掲】



① 歴史と食を一体的に連動させた戦略的な観光地づくり

H29 大政奉還150年
H30 明治維新150年

歴史資源の徹底した磨き上げと歴史施設を核とした観光クラスターの整備

② 本県の豊かな自然を生かしたアウトドアの拠点の整備

③ 外国人向け旅行商品づくりの抜本強化（クルーズ船受入対応を含む）

④ 観光産業を支える事業体の強化や人材の育成と商品造成力の向上

⑤ 官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化



これまでの取り組みの成果

【全国に向けた観光キャンペーンとセールス・プロモーションの展開】

- 観光キャンペーン「リョーマの休日～わざわざ行こう志国高知へ～」(H24.4～H26.3)では、エリアキャンペーンを展開し、仁淀川や室戸ジオパークなどの新たな観光素材による地域への誘客を図った。
- 「リョーマの休日～高知家の食卓～」(H26.4～H28.3)では、「高知家の食卓」県民総選挙に取り組むなど、食を中心とした旅行商品化を進めた。
⇒ 「高知家の食卓」晩酌きっぷの販売 10,872件 (H26.9～12)
- 地域の観光関係者との協働により、旅行会社向けのセールスキャラバンを実施し、旅行会社を通じた誘客を図った。
(セールスキャラバンへの旅行会社の参加)
⇒ H24 209社、411人 → H25 243社、595人 → H26 198社、652人
- 首都圏等のマスメディアへの情報発信を継続した結果、本県の露出が拡大し、首都圏をはじめとする新たな観光客の獲得に結びついた。

メディア露出実績	平成24年度	平成25年度	平成26年度
件数	33件	50件	167件
広告換算	約13億6700万円	約26億8000万円	約30億円

【スポーツツーリズムの推進】

- H26は天候に恵まれず年間の入込目標の到達に至らなかったが、スポーツ大会やアマチュア合宿の誘致に引き続き取り組んだ結果、H27は新たな大会の開催につながり、目標が達成できる見込み[要素2、図3参照]
⇒ H27新規誘致/全国大学女子野球、なでしこリーグ、東京6大学野球
⇒ アマチュア合宿延べ宿泊者数 H24 6,530人泊 → H26 11,148人泊

【国際観光の推進】

- H26年度から、国内外での旅行博・商談会への参加や、セールス活動を強化したことにより、H26の外国人延べ宿泊者数は目標を超過[要素3、図2、表1参照]
⇒ 国内外の旅行博・商談会への参加数 H25 4回 → H26 14回
⇒ モニターツアーの実績 H25 9回 → H26 20回
⇒ 観光庁の広域観光周遊ルートに四国が認定 (H27.6)
⇒ 多言語WEBサイト (VISIT KOCHI JAPAN) の開設 (H27.9～)

【コンベンション等の誘致】

- MICE (コンベンション等の誘致) の受入は増加しており、目標は達成できる見込み
⇒ H23 3.0万人 → H26 3.2万人 (目標値3.3万人)

【リピーターへの拡大】

- 観光キャンペーンや龍馬パスポートの展開により、リピーターは順調に拡大しており、目標は達成できる見込み[要素4、表1参照]
⇒ 龍馬パスポート利用者 3年4カ月で11万6千人 (H27.8末現在)

【外国人観光客を含む受入環境の整備】

- 観光案内版や観光地の公共トイレの整備、おもてなしタクシーの利用促進などにより、観光客の満足度は全体的に向上[表2参照]
⇒ おもてなしトイレの認定 694箇所 (H26年度末)
⇒ おもてなしタクシー認定ドライバー 457人 (H26年度末)
- 外国人観光客の受入態勢をH27～H28の2年間で官民協働により強力に推進する仕組みを構築
⇒ おもてなし県民会議に国際観光受入部会を設置
⇒ 多言語案内板・パンフレット、wi-fi環境などの整備を支援 (8月末現在28箇所)
- 免税店制度の説明会を県内3ブロックで開催し、免税店が増加
⇒ H26年4月 4店舗 → H27年4月 28店舗
- 増加する外国クルーズ船の受入に対応するため、県、高知市及び高知市中心商店街とプロジェクトチームを立ち上げ、受入環境整備を推進
⇒ 外国クルーズ船の本県への寄港 H26 1回、H27 3回、H28 18回 (予約含む)

見えてきた課題

【歴史系のトピックを活かした観光キャンペーン等の展開】

- 明治維新150年に当たる平成30年を大きなチャンスと捉え、全国からの注目を集め、県全体への集客を図るための大規模なキャンペーンとプロモーションを展開することが必要 (⑥)



(高知城歴史博物館)



(坂本龍馬記念館)

【スポーツツーリズムの推進】

- 本県の強みである海、山、川などの自然環境を活かしたサイクリングなどのアウトドアスポーツがまだ十分に展開できていない (⑦)

【国際観光の推進】

- 全国的に見ると高知県への外国人観光客はまだまだ少なく、認知度向上に向けた四国4県での取り組みが必要 (平成26年外国人延べ宿泊者数全国44位) (⑧)
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピックを誘客のチャンスと捉え、本家高知の「よさこい」を活用して世界に高知県を大きくPRすることが必要 (⑨)

【コンベンション等の誘致】

- 高知県を初めて訪れるきっかけとなるコンベンション等の誘致をさらに進めるため、体制の強化が必要 (⑩)

【リピーターへの拡大】

- 龍馬パスポートをバージョンアップし、さらにリピーターを増やすことが必要 (⑪)

【外国人観光客を含む受入環境の整備】

- 案内標識やタクシーの接客などのさらなる改善が必要 (⑫)
- 外国人観光客への着地でのきめ細やかな情報提供や受入環境づくりを早急に進めることが必要 (⑬)



435万人の早期実現をめざしたさらなる挑戦

⑥ 明治維新150年に向けた大規模なキャンペーンと博覧会の開催

H29 大政奉還150年
H30 明治維新150年



平成の薩長土肥連合の活用

⑦ 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進

⑧ 四国4県が連携した広域国際観光の推進

⑨ 2020年東京オリ・パラに向けた「よさこい」の戦略的な活用

⑩ MICEの誘致活動の強化

※ MICE/M:ミーティング、I:インセンティブ、C:コンベンション、E:イベント

⑪ 国内外からの観光客の満足度をさらに高めるための受入環境整備 (クルーズ船の受入対応を含む)

